

## サーチライト With Pastor Jon 番外編 過越し祭の子羊① 出エジプト記 12 章

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェロシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェロシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

出エジプト記 12 章。出エジプト記 12 章には、毎年行わなければならない主の例祭である『過越しの祭』に関して、驚くことが書かれています。『過越し』は後々『過越しの祭』と呼ばれますが、12 章にはその時の様子と共に、代々にわたって毎年行われるこの祭りの起源、始まった経緯も記されています。

過越し祭については多くの方がご存知だと思いますが、簡単に説明しますと、イスラエルの民は、エジプトで何百年もの間奴隷として使われ、とても過酷で残忍な扱いを受けていました。遂に民は神に助けを叫び求め、主は、モーセという助け手を送ります。出エジプト記 4 章で神はモーセに語りました。

「そのとき、あなたはパロに言わなければならない。主はこう仰せられる。『イスラエルはわたしの子、わたしの初子である。(出エジプト記 4:22)』

そこでわたしはあなたに言う。わたしの子を行かせて、わたしに仕えさせよ。もし、あなたが拒んで彼を行かせないなら、見よ、わたしはあなたの子、あなたの初子を殺す。』(出エジプト記 4:23)

「パロよ、わたしの息子を、わたしの民を行かせなさい。もし拒むなら、あなたの初子である息子は死ぬ。」こうして主は、次から次へと続く災いでパロを打ちました。しかし、主の民を行かせるために主がもたらした連続して襲いかかる災いにもかかわらず、パロは何度も何度も心を固くします。12 章、最後の災いで、遂に主がノックアウトするまで。

それが、過越し祭。主のノックアウトパンチです。

ニサンの月の 14 日、真夜中に、主はエジプト全土を歩き巡り、パロを含め、血のしるしがされていないエジプトの全ての家の初子が殺されました。事実、エジプト人はどの家も血のしるしをしていませんでした。

死が家に入り込まないためには、子羊を取って、屠り、その血を家々の戸のかもいと両側の門柱、それに、へ

ブル語でサップという戸の下側にも塗らなければならなかったのです。血は、戸のどこに塗られていますか？  
上、下、横、横。つまり十字架の形。

そして主は言われました。「もし、その血を見たら…わたしはその家には入らず、過ぎ (pass) 越す (over)。」  
『過越し』という言葉は、そこから来たのです。

「その血を見たら、わたしは過ぎ越す。その血が塗られていない家は過ぎ越さず、初子が死ぬ。」その通りに、  
神は全土を行き巡り、血が正しく塗られていない全ての家の初子を殺しました。パロは叫び、激怒し、エジプト  
全土は悲しみ苦しみました。その夜、彼らの息子が殺されたから。パロは遂に「出て行け！ どこへでも行  
け！」と言い、イスラエルの民は自由になったのです。遂にイスラエルの民は自由を手に入れ出発しました。  
その時、主が 12 章で言ったのはこうです。「この日、主が勝利を与えて下さったことを覚えて、毎年これを祝  
わなければならない。」

この夜、主は彼らをエジプトの国から連れ出すために、寝ずの番をされた。この夜こそ、イスラエル人はすべ  
て、代々にわたり、主のために寝ずの番をするのである。(出エジプト記 12:42)

主は、モーセとアロンに仰せられた。「過越のいけにえに関するおきては次の通りである。」

(出エジプト記 12:43)

この過越は毎年子羊を屠って食べて祝います。それぞれの家族で子羊を屠るのです。

「これは一つの家の中で食べなければならない。あなたはその肉を家の外に持ち出してはならない。」

(出エジプト記 12:46)

つまり、傷のない子羊を、家族で、家の中で食べます。

そして、46 節の最後のことばに注目して下さい。

「またその骨を折ってはならない。」(出エジプト記 12:46)

興味深いですね。神は、「毎年行われる過越しの祭で、一家族に一頭ずつ屠られる子羊の骨を折ってはなら  
ない」と具体的に特記しているのです。

神はこれを民数記 9 章でも描写しています。言い換えれば、これは神にはとても重要なことで、神の法則の一  
部だということ。「子羊の骨を折ってはならない。」なぜ？ どうしてですか？ この過越しの子羊は、傷のない  
完全なイエス・キリストを表しているからです。パウロはこう言っています。私たちの過越の小羊キリスト (I  
コリント 5:7)

来る年も来る年も家族ごとに屠られた子羊は、後に現れる愛すべき完璧な小羊、私たちの救い主イエス・キ  
リストを示しています。世の罪を取り除く神の小羊 (ヨハネ 1:29)

ここで一つ理解し覚えていて欲しいのが、「その骨を折ってはならない。」(出エジプト記 12:46)

神はなぜ、毎年過越しで献げる子羊の骨を 1 本たりとも折ってはならない、と言ったのでしょうか。理解する  
ために書き留めて欲しいことは 3 つ。

No.1、これはイエスに関する預言だから。だから骨は折ってはならない。

No.2、これはイエスの証だから。イエスに関する預言であり証であるから。

No.3、イエスによる自由。

考えるべき 3 つのことはイエスに関する預言、イエスの証、イエスによる自由。

1 つ目のイエスに関する預言。「骨を折ってはならない」なぜか？ それは先ほど言ったように、イエスに関す

る預言だから。いいですか？ 子羊については、旧約聖書に何度も書かれています。まず、創世記 4 章では、一人の人のために子羊が犠牲になっている。その人の名前はアベル。カインとアベルの話を知っていますね。アベルは子羊を主に献げ、主は彼のささげ物を受け入れました。それから、今見てきた出エジプト記 12 章では、子羊が家族のために献げられました。たった一人のためではなく家族全員のために。ただ待って下さい。その先、出エジプト記 29 章では、子羊が民族のために献げられています。全民族のためにです。最初は個人のための子羊、そして出エジプト記 12 章で家族のための子羊、それから民族のための子羊、最後はヨハネ 1 章でバプテスマのヨハネが言いました。

**「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ 1:29)**

ここで全世界の小羊が現れました。私たちの小羊、私たちの主イエス・キリスト。

このように見ての通り、はっきりとイエスを示しているのです。

聖書に書かれている他の全ての子羊は、いつも犠牲と関連しています。

イエスはニサンの月の 14 日、過越しの日に死にました。過越しの祭が行われるまさにその日に。神の小羊、私たちの救い主が、十字架の上であなたと私のために犠牲になり、ご自身の命を献げられたのです。イエスがそうした時、「その骨を折ってはならない。」(出エジプト記 12:46)

私たちの完全なる小羊に何が起こったかを見てみましょう。

ヨハネ 19 章。私たちの過越し、世の罪を取り除く神の小羊イエスが犠牲になる場面が書かれています。イエスは十字架の上で 6 時間苦しんだ後、「完了した」と言われた。(ヨハネ 19:30)「TETELESTI」(テテレスタイ)。終了した。完成した。対価は支払われた。

そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。(ヨハネ 19:30)

その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に(その安息日は大いなる日であったので)、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。(ヨハネ 19:31) それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。(ヨハネ 19:32)

しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。(ヨハネ 19:33)

しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。(ヨハネ 19:34)

それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。(ヨハネ 19:35)

この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」という聖書のことばが成就するためであった。(ヨハネ 19:36)

それが見事に成就しました。これは、イエスに関する預言だったのです。

その日が来て、イエスが十字架にかかった時、他の二人の強盗はすねを折られて激しい痛みを訴えていましたが、兵士たちはイエスが既に死んでいるのを認めて、そのすねを折りませんでした。預言が成就されるために。

心に留めておいて下さい。十字架刑というのは、ものすごく激しい痛みと、長時間にわたる苦しみを受けるように制定されているのです。十字架刑では死ぬまでに通常 18~24 時間、最長で 36 時間かかります。この刑は長時間痛ませるように作られていて、他に比べようがないほど残酷です。人が十字架につけられた時、最初

の数時間に何が起こるかという、十字架につけられる時は膝を曲げて、片方の足の上にもう片方の足を乗せた状態です。そのため腕の激痛によって胸筋がけいれんを起こし、結果、息ができなくなります。胸筋が委縮し麻痺した状態で呼吸するには、釘の上に体重をかけ、膝を伸ばして胸を押し上げようと体を上下させなければなりません。とてつもなく難しい。

そして最後に、激しい苦痛を与えるためにすねを折ります。つまり、体を上下させて呼吸することができなくなり、その結果、窒息死するのです。

その日、ユダヤ人たちはピラトの所へ来て言いました。「明日は安息日だから、死体を十字架から降ろして欲しい。そのために兵士を送ってすねを折って下さい。」

そこで、兵士が十字架の下に来て、一人の強盗のすねを折り、もう一人のも折った。しかしイエスの所に来た時、既に死んでいたので折りませんでした。ただ、イエスが本当に死んでいるか確認するために、

**イエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。(ヨハネ 19:34)**

ここで、非常に重要なことを説明します。彼らは、イエスがわずか6時間という早さで死んでしまったことに大変驚きました。若くて健康な人が、たった6時間で死ぬというのは大変珍しいことだったから。しかし、ここがポイント。

それは、イエスは和解の目的を果たされたということです。神と人との和解！

神であり人となったイエスは、あなたや私、失われた人たちのために死にました。神は死ぬために人になり、それで和解がなされた。次のことを書き留めて理解して下さい。

ここに非常に重要な人生の法則があるからです。よくよく聞いて下さい。

死を抜きにして和解はあり得ません。神と人との間でも、あなたと配偶者の間でも、あなたと子供、あなたと上司、あなたとご近所の間でも、仲たがいや分裂があった時はいつでも、死なくして和解はあり得ないのです。これが和解への唯一の道です。

これが、十字架のメインメッセージです。神は、ご自分と私たちの間を和解させるために、人となって私たちの代わりに犠牲になり、死んで贖うことを選ばれました。

もしあなたが、かつては仲が良かった誰かと仲たがいで、今は距離を置いているなら、その人との間に問題が生じているなら、友だちであれ、配偶者であれ、誰かとの間に隙間ができているなら、道はただ一つ。聞いて下さい。和解する方法はたった一つしかありません。それは、誰かが死ななければならぬ。それ以外に道はないのです。“お互いさま”でもなく“話せば解決できる”でもない。死を抜きにして和解はあり得ません。

そして、和解するためには、誰かが身を引き、捨て、手放し、死ぬしかないのです。

誰がそれをするのでしょうか？

**イエスは、みなの方に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」(ルカ 9:23)**

**パウロは言いました。「私にとって、毎日が死の連続です。」(I コリント 15:31)**

それ以外に道はない。和解には、死以外に道はありません。

ここからがこの話の驚くべきところです。イエスはわたしたちのためにここで見本を示されました。人の体を持った神イエスが木にかかって死なれた。彼はすぐに死んで人々は驚いた。これが鍵です。和解のためには、あなたは死なねばならず、私も死ななければなりません。それで、アドバイスをしましょう。大事なものは、イ

イエスに倣って、素早く死ぬこと。いいですか？ イエスは苦しみを長引かせることもできました。十字架の上で体を上下させ続けることもできました。でもイエスは働きを終了させ、霊を渡され、人々は驚いた。どうしてイエスは働きを完了させて霊を渡されたのでしょうか？

それは、イエスが、すぐに来る復活の日曜日によみがえるためでした。これが鍵です。

死ぬ。私が、あなたが、私たちが、死ぬのが早ければ早いほど、復活の日曜日を早く迎えることができます。だけど、多くの人たちは、何週間も何か月も何年もグッドフライデー（受難日）に留まっています。苦しみながら…

「私は諦めない！」「頑張るぞ！」「自分の権利のために立ち上がる！」「確かに苦しい。だけど引き下がらない！」「負けるもんか！」

手放しなさい。忘れなさい。死ぬのです。明け渡しなさい。彼に、彼女に、彼らに言いなさい。「あなたの言う通りだよ。」「あなたが正しい。」「もう手放した。」「終わり。」

幾人かは言うでしょう。「何ですって!？ 私は何週間でも何か月でも何年でも上下してみせる！」それは血生臭い。それは醜く、それは悲しい。あなたの心がそう叫びます。

その日、イエスはすぐに死なれて、手本を示されたのです。

では、私が死んで、復活の日曜日に向かっていることをどうやって知ることができるのでしょうか？ 本当に諦め、手放し、明け渡したとどのように知ることができるのでしょうか？ 十字架の上ですべきことを行ったら、どうすれば分かるのでしょうか？ 答えはこれ。

突き刺される。イエスのように槍で突き刺される。彼らは脇腹を突き刺します。

あなたも私も、私たちが十字架にかけられる人たちから突き刺されるでしょう。

私たちが本当に死んだかどうかは、もし死んでいるなら反応しないことで分かります。

死んだ人を怒鳴りつけることもできます。やりたいたけ突き刺すこともできます。望むなら、蹴飛ばすことも。

でも、死人はそれに反応しません。

自分が本当に死んだか、どうやって分かるのでしょうか？ 突き刺された時、「痛い！止めろ!!」「おい！何するんだ、コラ!!」そんな風に反応したとしたら、まだ死んでいないということです。働きが本当に終わった、とどうすれば分かりますか？

全てを手放し、全てを明け渡して、復活の日曜日のよみがえり、奇跡の時へと進めるのは、突き刺されても反応せずに、血と水だけが出て来た時です。贖いと清め。二つの要素、血と水。贖い、赦しと清め。それによって、本当に死んだかが分かります。明け渡す。それによって和解が生まれ、復活が起こるのです。

兵士たちはイエスの骨を折りに来ましたが、イエスは既に手放し、明け渡していました。主が死んだ時に預言が完全に成就しました。主は死にあって、素早く死なれました。

主は霊を渡されました。兵士が主を突き刺した時に流れ出たのは血と水。贖いと清め。

恨みでもなく、皮肉でもなく、痛みでもなく、苦しきでも酢でもない。それは血と水でした。

つづく

**あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。**

**あなたの御前で、私を喜びで満たしてくださいませ。(使徒の働き 2:28 新改訳 2017)**